

パクリとカバーの境界線に関する一考察

今日のテーマは『レコード音楽におけるパクリとカバーの境界』ということでした。

2015年の夏は「パクリ」という言葉がニュースを賑やかしましたが、ことデザイン
の分野だけでなく、音楽業界においてもこの
「パクリ」というのは昔から多かれ少なかれ
あります。^注^ 「東京五輪二〇二〇^{ニーマルニーマル}」での
ポスター・デザイン盗用騒ぎを指す。

『「ぱくり」とは、大きな口をあけてものを食べるさまを示す言葉。転じて盗むという意味にも用いられている。』ということらしいですが、この説明そのものも Wikipedia
からのパクリです。

デジタル文化が進むことで「コピペ」と呼ばれるこの種^{しゅ}の行為が進展したとも言われています。さらにインターネットの普及で瞬時に様々な他人の作品に接することが可能にな

り、この「パクリ」という行為が更にし易くなつたというわけです。ところが、し易くなつたと同時に見つかり易くもなつたとも思われます。

この「見つかる・見つからない」とか「ばれる・ばれない」という面で言いますと、アナログの時代は良かったと言えるかもしれませんが。今ほど巷に情報が溢れていませんでしたし、情報を得るのも難しかったですから：：非常にばれにくかったとも言えます。

で、その典型的な例がアナログ時代の音楽てんけいてき：：1950年代から80年代初頭までのレコード音楽にはたくさん存在していると思われるわけです。もつとも今ほど権利関係、著作権などに関しても気にしてなかった（というか、そうした権利の存在すら知らなかった）悠長な時代でもあったわけですが、ただ、この点に関しては「悠長」だけでは済ませられない問題も潜んでいるわけですが、本日はスルーすることにします。

今日はそんな時代の音楽を取り上げ乍ら^{ながら}、超現代的テーマである「パクリとカバーの境界線」についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います：：（って、そんな大層なものでもありませんが）。

個人的な一端の結論：：これを哲学的には“仮説”などと呼びますが：：「私はカバーしてますよ／しますよ」と宣言してるのがカバー曲、宣言してないのがパクリ曲、と言えなくもないですね。

もう少し哲学的に考察すると、メロディーも歌詞もオリジナルと同じというのがカバー曲で、どちらかが違うというのがパクリ曲とも言えなくもないです。しかし乍ら^{ながら}、こうした形態でも同一のメロディーを同時期に異なる歌詞で異なる歌手が歌い、そのことを公にしている場合には『競作』（決して「盗作」

ではありませんよ）などと呼ばれます。

この競作に関しては、後ほど述べるかもしれないませんが、今は私の記憶に一番残っている例として、1968年にアップル・レコードの第一号アーティストとしてデビューした、メリー・ホプキンのシングル盤「悲しき天使 (Those were the days)」を挙げるに留めます。発売当時、私の知る限りではメリー・ホプキン、森山良子、それにヴィッキーの三人の曲がラジオのヒットチャートなどで流れていました。

この例もそうですが昭和の「競作」に特徴的なのが、作者不明の楽曲に多いということです。これには理由があって、一つには、昭和時代の音楽界ではまだ『専属』方式が基本であり、あるレコード会社の専属作曲家・作詞家・歌手の楽曲は、他社の歌手が容易にカバーする事ができなかつたからです。

閑話休題

今日ここにお集りの皆さんはお若いのでご存じないかと思いますが、この所謂「パクリ疑惑」率が非常に高い歌手の例として、フォークシンガー・高田渡さんの曲をまず最初に採り挙げてみます。

高田渡さんは、岐阜県のお生まれで、残念ながら若くして、と言っても五十六歳でしたが、2005年に亡くなられています。ここ

岩村にも縁のある、東濃の著名なフォークシンガー、笠木透さんなどと同時期に活躍した方です。笠木さんも2014年12月にお亡くなりになられました：：。

高田渡さんの凄いのはその生き様としてパクリに徹していたところ。先ほど「疑惑」と断ったのは、実は元歌が何かはつきりしないものも多いからです。彼は、アメリカ合州国のフォークソングのレコードを聴きまくって、その中の曲に日本の明治・大正頃

の壮士演歌（いまの演歌とは全く違うものです）の歌詞などを乗つけて歌い、高田渡独自のフォークソングとしていました。なので、高田渡さんの歌を聴くとどうしても、この曲の元歌はなんだろう、と考えながらになってしまいます。

自転車にのって 2分42秒 高田渡

ブルーウォーターライン 2分50秒 ザ・

ブラザース・フォー

因みに「自転車に乗って」の作詞・作曲クレジットは高田渡となっています。この二曲が似てるかどうかの客観的な基準はありません。似てるかどうかわかれば、似てないよという方も、全然違うじゃんという方もいて当然だと思います。あるいはもつと似てる曲があるよってのもアリだと思います。あくまでも私的見解です。

次も高田渡さんの曲ですが：：元々明治・大正期に活躍した壮士演歌の添田唾蟬坊そえだあぜんぼうという演歌師が「流浪の民」のメロディーで歌っていたものです。元歌自体もメロディーを拝借したものだそうですが、それを高田渡さんは、ピッキング（ギターの弦の爪弾き方）で有名なカーター・ファミリーの“Wabash Cannon Ball”（弾丸列車）のメロディーに載せ替えて歌ったものだそうです。

今日お送りするものでは更にもうヒト捻りしてあるのが味噌です。

しらみの旅 3分31秒 高田渡
プロミスド・ランド 2分34秒 チヤツ

ク・ベリー

ウェブで「しらみの旅」を検索（所謂ググる）しても、大抵は先の“Wabash Cannon Ball”オリジナルが元歌オリジナルとしか載っていません。しかし今聴いていただいた二曲目にきよくめはチャツクベリー

の曲なんです。完全にロックンロールですよ。ね。私は、これが不思議で不思議でたまらなかつたんですが、ひよんなところからこの理由が判明しました。

それは偶然YouTubeで見つけた「大瀧詠一のスピーチバルーン」という番組のアーカイブで、大瀧詠一・高田渡の対談があり、それを聞いて謎が解けたんです。興味ある方はご自身でググってみてください。

因みにさっきの「しらみの旅」のバックバンドは、大瀧詠一さんがいた。はっぴいえんどです。

さて、次の曲なんですが、かぐや姫とビートルズ：：まさか、ビートルズがかぐや姫をパクる？なんてことはありませんが：：。

元々はもう五十年近くも前、私の学生時代に、かぐや姫のこの曲を聴いた時から始まったのが、今日のテーマでもある「パクリとカバ^{かた}ーの境界」みたいな聴き方なのです。

黄色い船 2分32秒 かぐや姫

オクトパス・ガーデン 2分52秒 ビート

ルズ

いかがですか？

最初タイトルが「黄色い船」なんで、てつきり潜水艦のパクリかって思っちゃったんですけど、そこはさすがにプロですね、その期待をはつきり裏切りながら、しつかり真髓を極めていきます。タコなんですね。凄い！！ここまできるとパクリではなくオマーージュです。尊敬の念から作り上げたって感じがします。

ということ次もオマーージュ：：先ほども話にでてきました大瀧詠一さんです。

いま紹介したばかりの潜水艦の名曲です。聞くとところによるとポール公認だそうで、まあそうじゃなきやとても発売できなかった

よね、と言う凄い曲です。

イエロー・サブマリン ビートルズ
イエロー・サブマリン音頭 金沢明子

お気づきの通り、音頭の曲中には、様々な
ビートルズ曲のオマージュ・フレーズが散り
ばめられていますね。後に同じオマージュを
パフィーの曲中で（と言うよりパフィーその
もので）行ったのが奥田民生さんですが、今

日の処は採り挙げる時間がありません。残念



さて、大瀧さんの場合は色んな意味でかな
りインテンシヨナルてです。しかも巧うまいい。メロ
ディーラインの一部を、時にはそれとはつき
り分かるように、時にはほとんど目立たない
ように、巧妙に使っています。

次はちよつとわかりにくい：：：というか、元歌を知らないとその良さが全くわからないものです。で、その元歌が普段滅多に聴かない軍歌だったりすると、わかりにくさは何倍にもなるわけで、逆に元歌がわかった時の嬉しさも半端なものではありません。

加藤隼戦闘隊 デュークエイセス

花のボンクラ戦闘隊 所ジョージ

花のボンクラ加藤隼戦闘隊 “音齋処”

所ジョージさんがミュージシャンだということとは、今や殆どの方が信じない都市伝説と化しているのかもしれないが、私自身は、ミュージシャンとしての所さんを非常に高く評価している処です。私が評価したところでどうなの？というのは勿論あるのですが：：。所さんの曲作り、歌詞作りというのは非凡なものがあった、とても真似のし難いものだと思います。ある意味、先に述べた壮士演歌の

流れを汲んでいるといっても良いのだと思います。単なる冗談音楽ではなく、深いところでアイロニーなんかを含んでいて、意味深長な処があります。

今紹介した「加藤隼戦闘隊」でお分かりのように、曲調というか曲の流れをうまく掴んでいて、単なるメロディーのパクリではなくなっています。最後のミックスのように、元歌のエッセンスを繋ぎ合わせてみるとその凄さがお分かりいただけるのではないかと思います。

こうしたセンスは、高田渡さん、大瀧詠一さん、奥田民生さん等などに通づるでしょうし、私自身はビートルズのパロディ・バンドである、英国のラトルズの楽曲を思い出ししています。

所ジョージさんのアルバムもそうですが、ラトルズに関しては何時か何処かでご紹介したいと思っております。

さて、次からは完全にカバー曲です。
サイモンとガーファングルの曲を珍しいグループがカバーしています。私も最近まで知らなかったカバーです。

アイ・アム・ア・ロック 2分50秒 サイ
モンとガーファングルの
アイ・アム・ア・ロック 2分50秒 ホリ

ーズ

ホリーズと言えば “Bus Stop” が超有名ですが、どうも「バス・ストップ」と聞くと湯原昌幸の「雨のバラード」を思い出すというのには私だけでしょうか？

この場合は『情景ぱくり』と勝手に呼んでいます：：。

閑話休題：：

こちらにも完全にカバー曲です。いずれも元歌に対するリスペクトからカバーされた曲だと思いますが、意外なグループが意外な曲をかバーしているものをご紹介します。

ドント・ウォリー・ベイビー 3分5秒 ベ

イシテイー・ローラーズ

ドント・ウォリー・ベイビー 2分49秒

ビーチ・ボーイズ

2015年夏に公開された映画「ラブ・ア
ンド・マーシー」は、サーフィンとホット・
ロッドというアメリカの六十年代若者文化を
代表するグループで“サーフロック”なんて
いう呼び方までされた、ビーチボーイズ：：
そのメンバーの一人でありプロデューサーで
もあったブライアン・ウィルソンの半生を描
いた作品です。

曲きょくつていうのはこうやって作られるんだ、あの曲はこんな風ふうにして作ったんだくということ、ことを垣間見せてくれる音楽映画でもありません。

ビーチボーイズはビートルズと覇を競ったアメリカのグループですが、そのグループの素敵なコーラスにチャレンジした、ベイ・シティー・ローラーズはイギリスのグループです。一時はビートルズを超えた、とまで言われました。そんなグループなので、こちらのカバーは完全にリスペクトから出たものだと思います。

ブライアン・ウィルソンの音作りの特徴は多重録音とスタジオミュージシャンを多用した分厚いものです。彼が音作りに際して常に意識していたと言われるのが、“ウォール・サウンド”と呼ばれる手法で一世いっせいを風靡したファイル・スペクターです。

彼は第二級殺人罪さつじんざいで2009年から刑務所

にいたそうですが：：その後、新型コロナウイルス感染症に伴う合併症により死去したのが2021年1月のことでした。八一歳だったそうです。

ブライアンのファイルに対するリスペクトが感じられる曲を次に：：。

因みに、歌っているロネッツのメンバーの一人がファイルの最初の奥さんです。

チャペル・オブ・ラブ 2分34秒 ビー

チ・ボーイズ

チャペル・オブ・ラブ 3分7秒 ロネッツ

いかがでしたか？

私は本当にリスペクトに溢れたアレンジだ
と思うのですが、皆さんはどう感じられましたか？

コーラスって上手い人たちがやると本当に
素敵ですよ。そんな素敵なコーラスを：：

一人でやったアルバムも捨て難いのですが、ごく最近、ある件に関してご本人から意外な発言があり、私は彼の楽曲を聴いたり紹介したりする資格がないことが判明しました。なので、この話はここで終わりとします。

そろそろ本日の“音齋処^{on-site}”も終わりが近づいて参りました。まだまだ紹介したい曲は沢山ありますが、最後はちよつと時間を贅沢に使って、四曲続けてお聴きいただきましたと思います。

お送りするのは……

The End Of The World スターキー・デイヴ
イス

THE END OF THE WORLD HERMAN'S HERMITS

この世の果てまで レターメン

THE END OF THE WORLD CARPENTERS

です。

この曲の元歌は、最初にお送りする、スターキー・デイヴイスですが、私が聴いた順番は必ずしもお送りする順番ではありません。そんなことはほつといて楽曲に行きます。

今日は古希記念に買ったMacBook Airの新型を使いたくって、テーマとプレゼン方法をあれこれ考えていたんですが、どうせなら今までやったことのない、斬新な、今時な、驚くような拙いエアアイ的やり方を、とこんな方法になりました。

文章自体は2015年頃書いたものを今風にアレンジしています。ビートルズの新曲がエアアイを使って：：とかの話題にヒントをもらい、これもエアアイの一つだよって示しながら、面白い読み手として採用してみました。

いかがでしたか？ 楽しんでいただけただけでしょうが？

本日もありがとうございました。 〈完〉